

千田北遺跡 笠塔婆説明会 資料

平成31年2月17日(日) 金沢市埋蔵文化財センター

1. 調査概要

調査原因	都市計画道路(金沢外環状道路)木越福増線築造工事
調査期間	平成30年4月~平成30年9月
調査地	金沢市千田町地内
調査面積	約4,300㎡

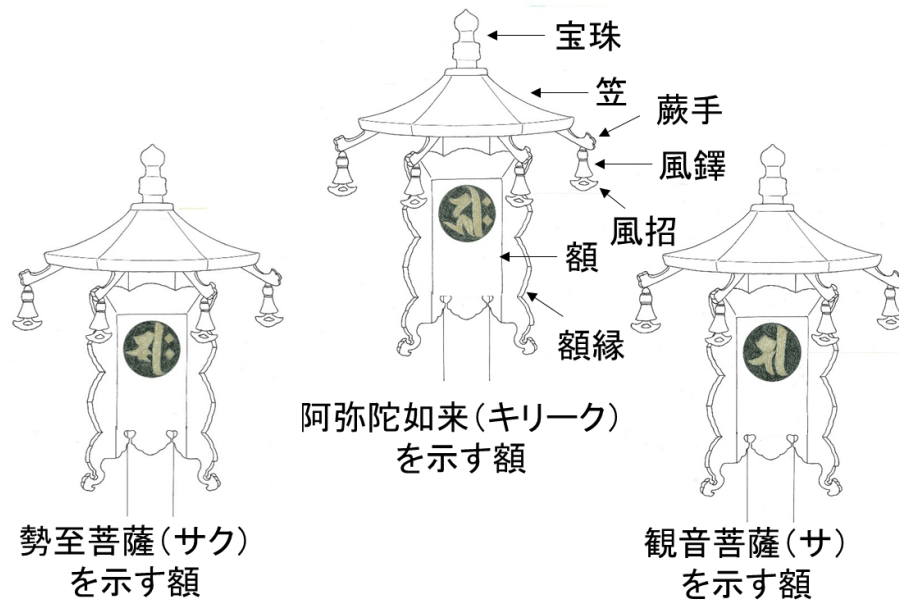
2. 出土した木製笠塔婆について

木製笠塔婆とは、角柱や板状の塔婆に笠の屋根を乗せたもので、塔身には仏像や種子、名号、願主、年号などが記されます。墓地や街道沿い、人々が集まる空間に建てられていました。

千田北遺跡からは、笠塔婆を構成する部材として、宝珠、笠、蕨手、風鐸、風招、額(額面・額縁)、が出土しており、軸となる竿は見つかっていません。また、周囲を囲んだと考えられる釘貫の部材も出土しています。年代は、共に出土した土器・陶磁器から13世紀頃(鎌倉時代頃)と考えられますが、自然科学を用いた年代測定も今後実施する予定です。

額は、堀(3区SD40)から3点出土しました。全て左右どちらか半分ほどが見つかっています。上端及び左右端部は、額縁が斜めに取り付けようように仕上げられており、鉄釘によって額縁と固定しています。下端部は、規則的な花先形の線形と猪目によって仕上げられており、額縁のデザインと共通しています。それぞれ額面に円相を彫り、内部に阿弥陀如来を示す種子「キリーク」、観音菩薩もしくは勢至菩薩と考えられる種子「サ」もしくは「サク」を薬研彫りしています。円相内には黒色の顔料(漆か、分析中)を塗布し、文字部には、金箔を押しています。

両側の額縁下端部は外側に屈曲し、先端部が蕨手と類似した花先形となります。上縁の表面には、模様の痕跡が浮き上がって残っており、何らかの描画があったようです。また、上縁・側縁ともに、乳白色の彩色痕が見られるため、額面と共に円相内部以外は白色系の顔料が塗布されていた可能性があり、分析を進めています。



千田北遺跡出土笠塔婆の推定復元図

・額面の3種類の種子は、阿弥陀三尊を示していると考えられる。

3. 笠塔婆のある風景

絵画資料等を参考にして、本遺跡での出土状況から以下のような景観復元ができます。

宝珠が2点、額が3点あることから、1基の笠塔婆に3面の額が取り付けられるのではなく、少なくとも3基の笠塔婆が立っていたと推測できます。

頂部に宝珠をもつ六面体と推定される笠からは、金具で風鐸と風招をつり下げた蕨手が延びています。笠は柱状の竿(未発見)と接続し、縦長の額が固定されています。額には阿弥陀如来などの種子が彫刻され、円相内は黒色漆もしくは顔料を塗布、種子内は金箔押し、その他の部分は白色系の顔料による彩色が推測されます。額の下方を除く3方には装飾を施した額縁が、額に対して斜めに起き上がった状態で鉄釘によって固定されています。額の下半部は、風蝕によって見えなくなっていますが、恐らく願文や願主、年号等が記載されていた可能性があります。

また、額2・3等の上には、こぶし大の石が多く積み重なって出土したことから、笠塔婆の基礎部分には石が置かれ、その周囲は共伴した釘貫で囲まれていた可能性があります。



千田北遺跡出土笠塔婆が立つ風景イメージ図

- ・笠塔婆の笠や蕨手、風鐸、風招、また釘貫柱の頂部付近は、彩色されていた可能性があるが不明なため木肌色とした。
- ・額面の円相内部は黒色、種子は金箔、円相外部と額縁は乳白色の彩色を想定した。

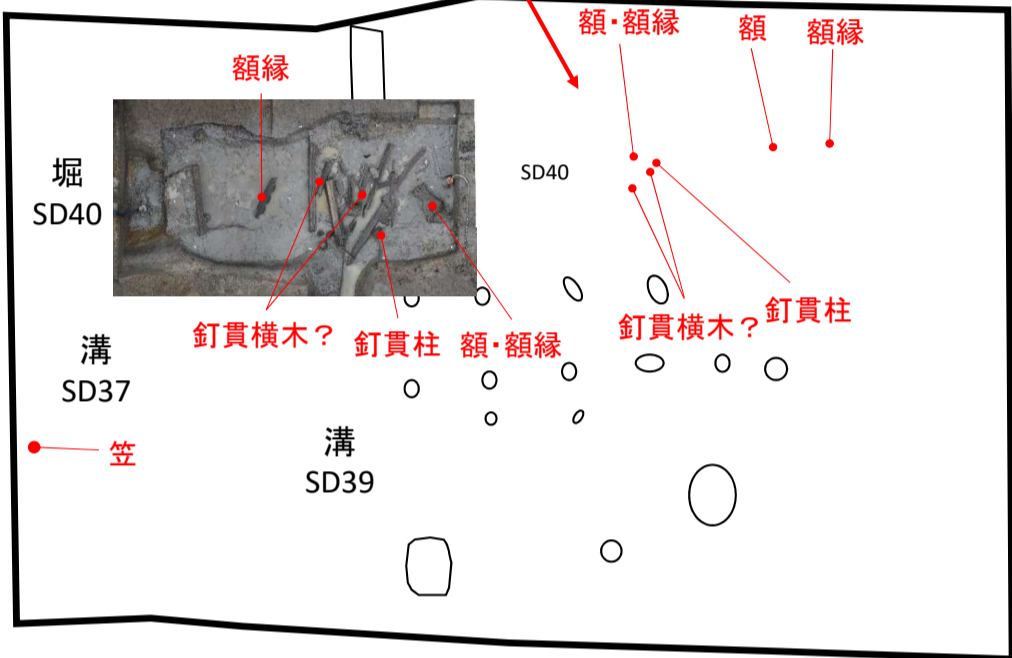
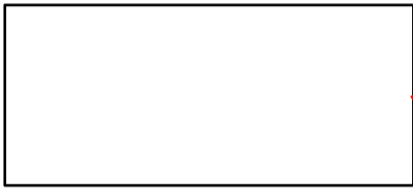
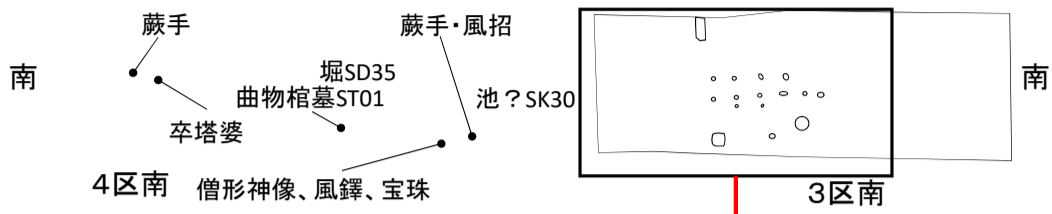
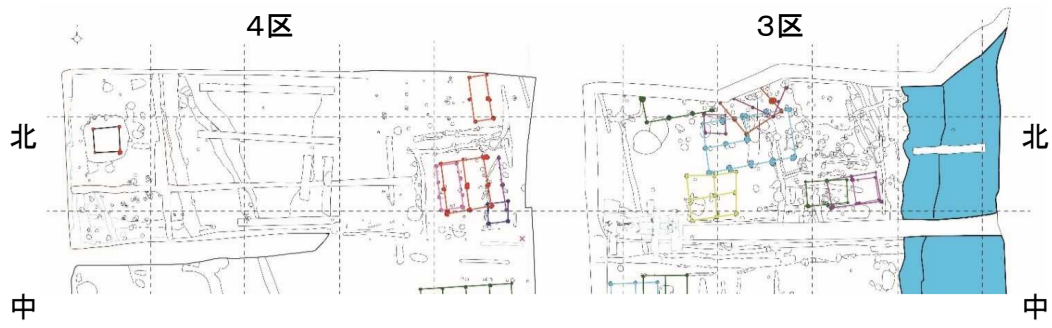
3. 笠塔婆出土が意味するところ

木製笠塔婆の出土例としては、珠洲市野々江本江寺遺跡に次いで2例目となります。ただし、金箔を用いた事例としては唯一の出土例です。

平安時代末には、奥州の藤原清衡が街道の一町毎に金箔押しの阿弥陀像を描いた笠塔婆を建立したことが記録(吾妻鏡)に残っています。像と種子という違いはありますが、その情景を示す貴重な事例といえます。

また、額面と額縁が接続した状態で出土することも初の事例で、釘貫も共に出土していることから、木製笠塔婆が建てられた景観が考古資料で明らかになった点が、評価されます。

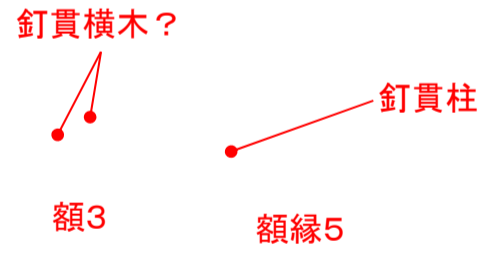
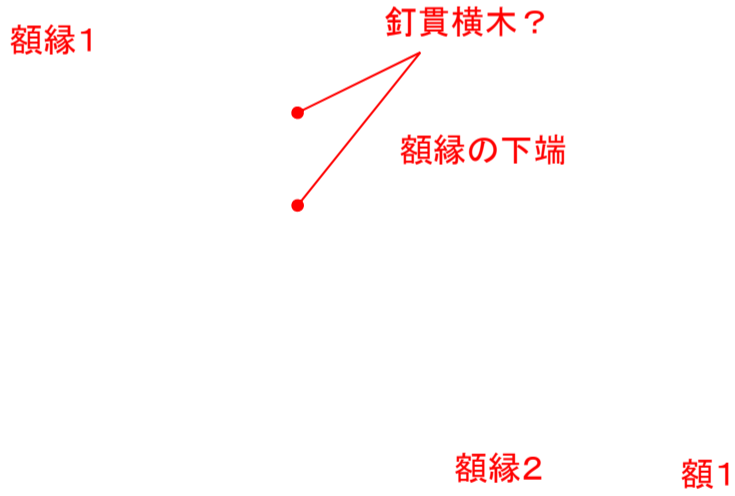
このような笠塔婆を用意できた人物は、地域の有力者と考えられ、鎌倉時代頃の千田北遺跡周辺には、大きな力を持った人物が所在していたと推察されます。そして、室町時代には一向一揆の有力寺院である木越光徳寺、木越光琳寺、木越光専寺がこの地に拠点を構えます。このことを今回の調査成果と併せ考えると、この地には後の強い勢力(この場合は宗教勢力)を迎え得る地盤が鎌倉時代には存在していた可能性を指摘できます。



宝珠



額と額縁の関係



額縁3・4 額2

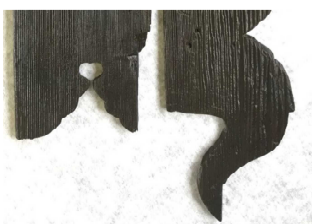
風鐸

額縁5と額3は3本の鉄釘で接合された状態で出土

額1、額縁1・2出土箇所



額縁6



額1(拡大)
円相と阿弥陀如来を示す種子(キリーク)を彫り込み、円相内に黒色顔料(漆か)を塗布し、種子の彫り込み部に金箔を押し

額縁1

額縁5・額3 (サorサク) 額2 (サorサク) 額縁3 額縁4